

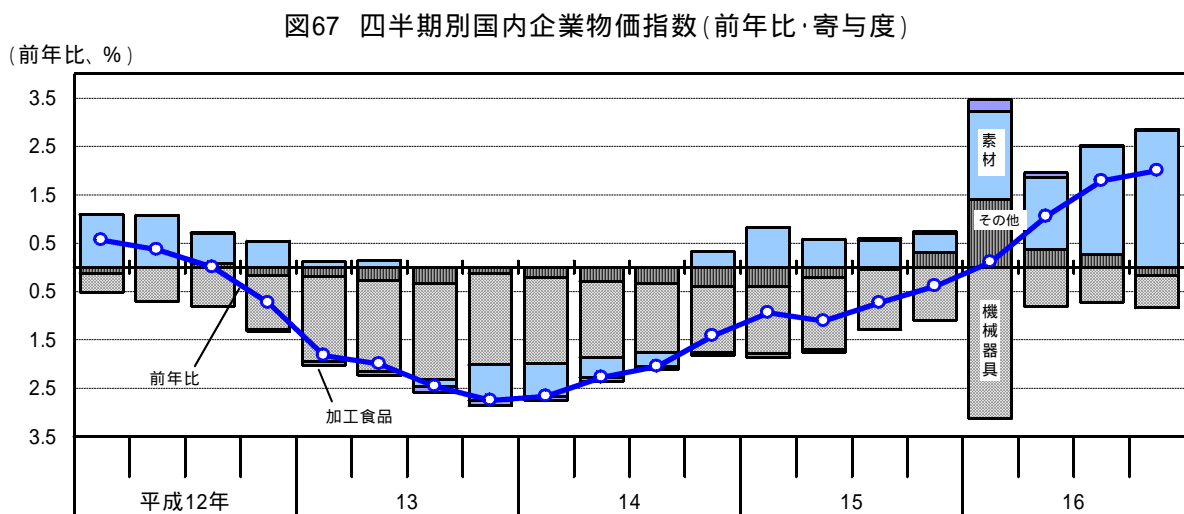
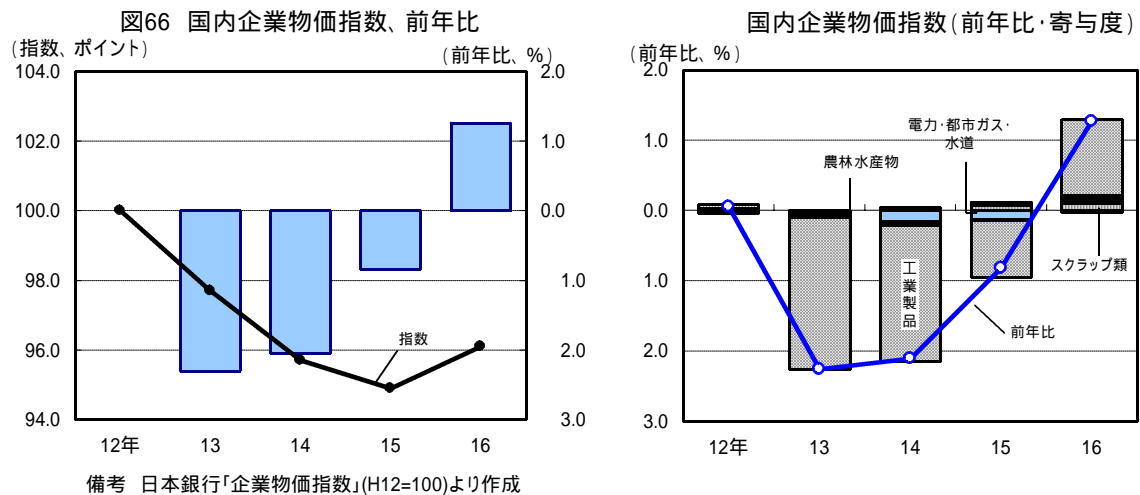
## 5 物価

### (1) 国内企業物価指数

国内企業物価指数(総平均)は、素材価格等の値上がりにより、平成16年は96.1(前年比1.3%増)となり、7年振りに前年を上回った(図66)。品目ごとの寄与度をみると、工業製品が素材価格や原油価格の値上がりにより、物価指数の上昇に大きく寄与し、また、鉄鋼やパルプ類の需要の高まりを背景にスクラップ類の価格上昇もプラスに寄与している。

四半期別の動きをみると(図67)、12年第4半期以降13期連続で前年比マイナスで推移していたが、16年に入り、すべての四半期で前年を上回った。

項目別にみると、素材は、14年第4半期以降プラスに寄与し、スクラップ類を含むその他も15年第4半期から16年第4半期までプラスに寄与している。一方、機械器具は市場での競争の激化等を反映し、平成12年以降でみても一貫してすべての四半期でマイナスに影響している。



備考 1 日本銀行ホームページ「企業物価指数」時系列データより作成

2 素材は「繊維製品」、「製材・木製品」、「パルプ・紙・同製品」、「化学製品」、「プラスチック製品」、「石油・石炭製品」、「窯業・土石製品」、「鉄鋼」、「非鉄金属」、「金属製品」を統合したものである。

3 機械器具は「一般機器」、「電気機器」、「輸送用機器」、「精密機器」を統合したものである。

4 その他は、「鉱産物」、「電力・都市ガス・水道」、「スクラップ類」、「その他工業製品」、「農林水産物」を統合したものである。

## (2) 福島県消費者物価指数

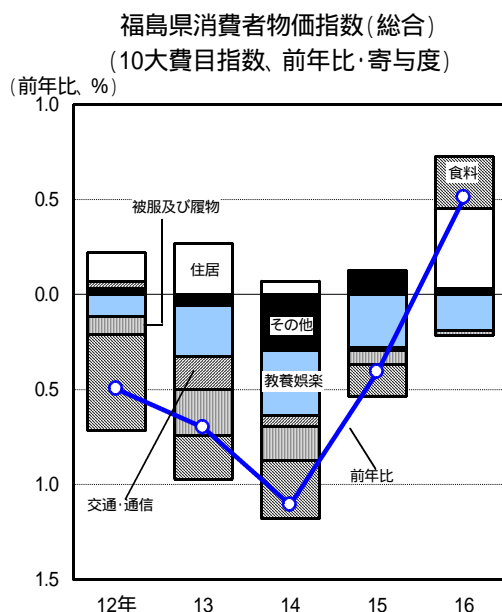
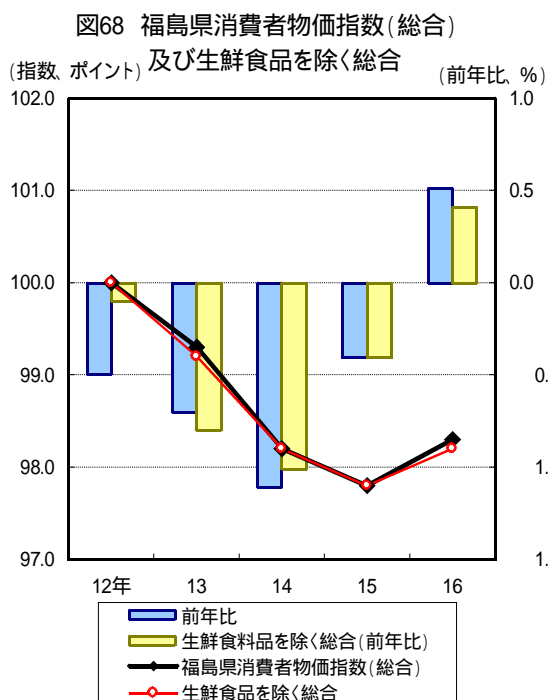
平成 16 年の福島県消費者物価指数(総合)は 98.3 となり、前年比で 0.5% 上昇し 6 年振りに前年を上回った(図 68)。

10 大費目で各指数の寄与度をみると、穀類、肉類、設備修繕・維持、他の光熱(灯油)の値上がりにより、「食料」、「住居」、「光熱・水道」がプラスに寄与した。一方、教養娯楽用耐久財、教養娯楽サービス、家庭用耐久財などの値下がりなどにより、「教養娯楽」、「家具・家事用品」、「被服及び履物」は低下要因となった。

なお、「生鮮食品を除く総合」は 98.2 となり、前年比 0.4% 上昇し 6 年振りの上昇となった。

さらに、四半期ごとに各指数の推移をみると(図 69)、総合では 15 年第 四半期まで前年を下回る動きが続いていたが、16 年第 四半期以降前年を上回って推移した。平成 16 年について 10 大費目別にみると、前年の冷夏による米類の高騰の影響が残ったこと、台風や長雨などの天候不順により葉物野菜が高騰したことにより、「食料」が第 四半期以降前年を上回り、設備修繕・維持の値上がりにより「住居」もすべての四半期で前年を上回って推移した。また、原油価格の上昇傾向から他の光熱が値上がりし、第 四半期を除いて「光熱・水道」も上昇し、ガソリンの値上げから「交通・通信」も第 四半期以降前年を上回って推移した。一方、「保健医療」は、前年 4 月の医療保険制度改正の影響が残った第 四半期は前年を上回ったものの、保健医療用品・器具などの下落により、それ以降は前年を下回った。また、「家具・家事用品」、「教養娯楽」は前年を下回る動きが続いている。

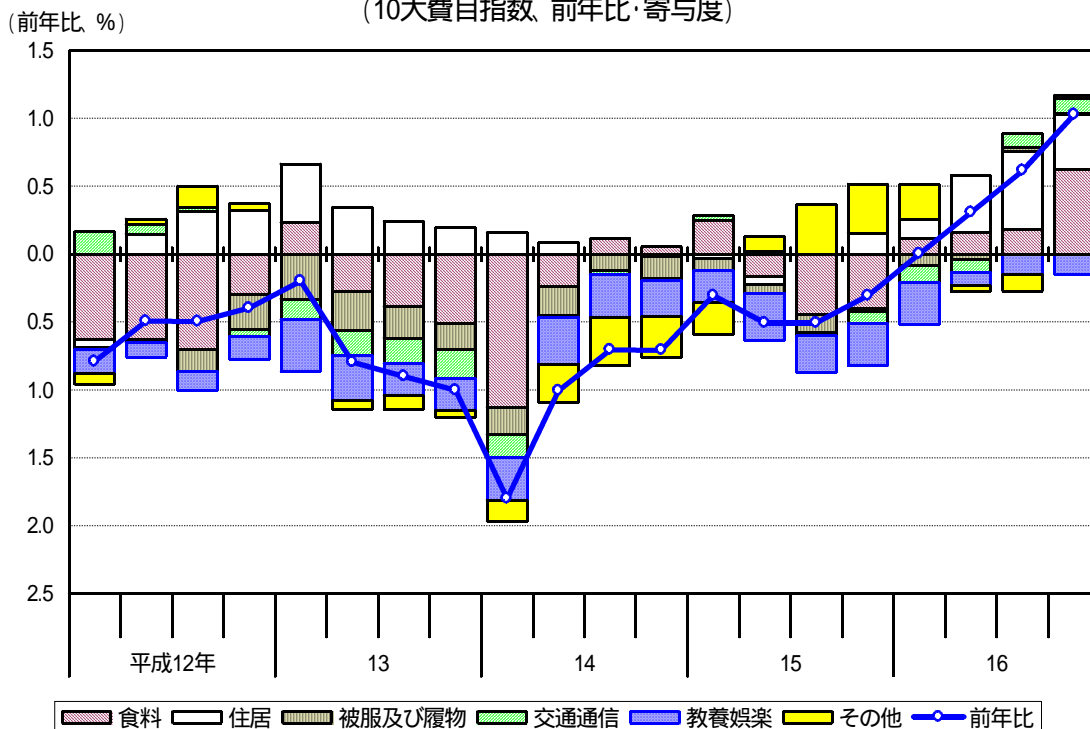
なお、「生鮮食品を除く総合」では、平成 16 年はすべての四半期で前年を上回って推移した。



備考 1 福島県情報統計領域「福島県消費者物価指数」より作成  
2 その他は、「光熱・水道」、「家具・家事用品」、「保健医療」、「教育」、「諸雑費」を含む。  
3 H12=100

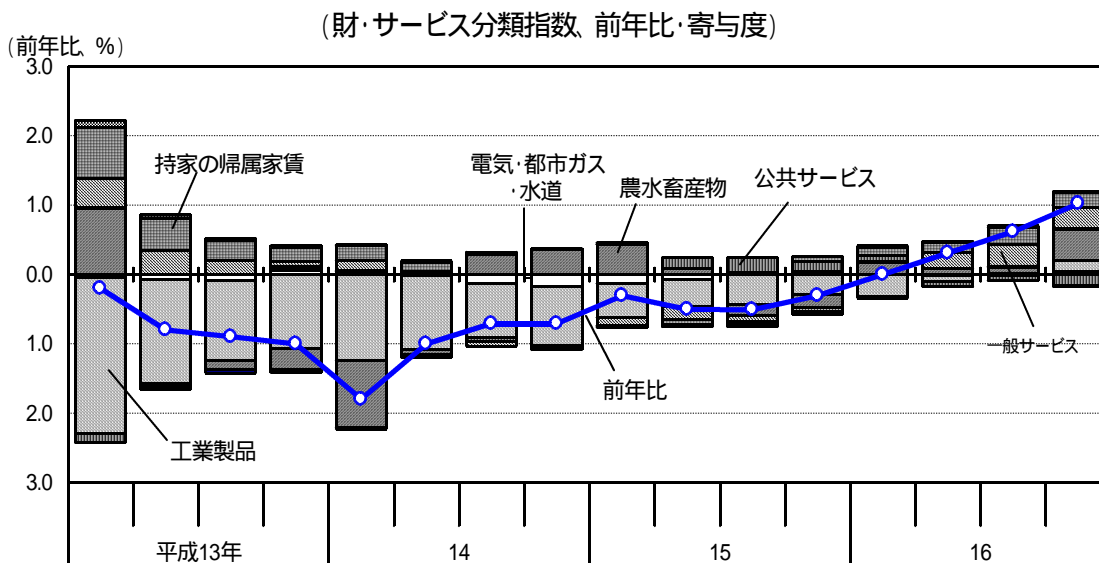
財・サービス別にみると(図 70)、16年の財分類は、「農水畜産物」が穀類、生鮮野菜等の値上がりによりすべての四半期で前年を上回って推移し、また、「工業製品」は原材料の値上がりにより年後半から徐々に上昇したことにより、第 四半期以降前年を上回って推移した。サービス分類は、前年に公共料金の値上げが相次いだことの影響により、「公共サービス」が 四半期以降前年を下回ったものの、民間家賃等の上昇により、「一般サービス」が第 四半期以降前年を上回ったため、すべての四半期で前年を上回った。

図69 四半期別福島県消費者物価指数



備考 福島県情報統計領域「福島県消費者物価指数」より作成  
 その他は「光熱・水道」、「家具・家事用品」、「保健医療」、「教育」、「諸雑費」を含む。

図70 四半期別福島県消費者物価指数



備考 福島県情報統計領域「福島県消費者物価指数」より作成